

## 学童保育とともに、仕事充実、家事・育児充実

働き方を見直し、家事・育児にも時間を、ということの大前提は、仕事が心置きなくできること、そのための時間管理ができること、です。小学生の子どもがいても、それを保障してくれるのは、学童保育があるということです。

保護者どうしの協力、そして、経験豊かな指導員によって、子どもの豊かな生活が保障されている学童保育があれば、夫婦フルタイム勤務、核家族、長距離通勤であっても、土曜の勤務、小学校の長期休み中の勤務も含めて、保護者は安心して仕事に没頭できます。子どもがいるから仕事が中途半端、なんてことはありません。

また、学童保育の運営や保育内容に、保護者もしっかり責任を持つことで、大人は、地域人、保護者として成長できます。仕事がありますから、これだけに没頭することはできませんが、できる範囲、お互いさま、という考えで十分です。とにかく、仕事だけしかできない奴、なんてことはありません。保護者どうしの協力があれば、男性であれ、女性であれ、家事、育児、地域活動などにしっかり力を出せますし、最初、勝手がわからなくても、その能力がどんどん磨かれていきます。そしてこれは、仕事においても、さまざまな能力となって返っていきます。

それぞれの学童保育だけでなく、地域ごとで学童保育の連絡協議会があり、その中で、指導員の研修も行われています。保護者参加の研修もあります。キーパーソンは、学童保育で奮闘する保護者全員であり、その支援者は学童保育支援員であり、学童保育の保護者会であり、学童保育の連絡協議会であるといえるでしょう。そしてなにより、放課後や休みの日に、子どもに豊かな生活を保障することで、子どもが力強い社会人として育っていき、次世代のキーパーソンや支援者になることを願っています。



学童保育のキャンプで、子どもも指導員も保護者も、夜空と対話